

輝

観客に楽しんでもらえる演技を

三好演劇塾公演「秀じいと山の子たち」主演

安藤 嘉男さん(三好丘旭)

毎週金曜日の夜、サンアート大ホールには2月13日の三好演劇塾公演「秀じいと山の子たち」本番に向け、塾生の熱のこもった練習の音が響き渡っています。今回はその主役の「秀じい」を演じる安藤嘉男さんを紹介します。

演劇が趣味という安藤さんは2年前、自ら演じる機会を求めて三好演劇塾の旗揚げ公演の出演者募集に応募しました。初めて演劇の楽しさを知ったのは、小学生のころの学芸会。「引っこ込み思案で素直に気持ちを表に出せない性格だったのに、役を演じる時には不思議と怒ったり笑ったり、自由に感情表現ができたんです」と演じることに引かれ始めたころの思い出を話

します。その後20代のころには「豊田演劇集団」という劇団で活動していました。安藤さん自身にとっても、今回で三好演劇塾での3回目の公演。前2回の豊かな演技力を買われ、演出の先生から主役の「秀じい」にはぜひ安藤さんをと抜てきされました。「秀じいと山の子たち」をほかの町民劇団が演じた舞台のビデオを見て以来、自分もぜひ秀じいを演じてみたいと考えていたそうです。新聞配達をしていた小学生のころ、いつもここにきて迎えてくれた近所のおじいさんや、10年間も寝たきりで亡くなった祖母のことを思い出しながら、演じているという安藤さん。毎日の通勤の電車の中で台本を読んで、運転している自動車の中では何度も声に出してせりふを覚えます。役づくりについて「せりふを言いながらちゃんと表情に出せているか鏡を見て確認します。怒った顔や笑った顔でせりふを言うと、不思議と本当にそういう気持ちになってくるんですよ」といっつり。「これだけ自分が、秀じいの気持ちを表現できるかわかりませんが、多くの皆さんに観ていただいで、楽しんでもらえる演技がしたいですね」と瞳を輝かせます。



プロフィール

あんどう・よしお 昭和29年生まれ。趣味は演劇や狂言、三河万歳を演じること。三好演劇塾には妻・真弓さんと息子・幹甫くんも参加。

三好演劇塾…平成14年度に発足した町民演劇団。合唱劇「カネト」(平成14年度)、創作ミュージカル「はるかなる銀色の水」(平成15年度)に続き、今回が3回目の公演となる。

「秀じいと山の子たち」…認知症(※老人とそれを取り巻く人々の話。山里での老人と家族、子どもたちとの交流を通して自然の大切さ、生きることの大切さをコミカルに、また感動的に塾生たちが演じます。(※厚生労働省より「痴呆」に換わる用語として通知されました)

▼問い合わせ＝サンアート☎(32)20000

INTERVIEW WITH YOU

あなたにインタビュー

成人式を迎えて

成人式に出席して、久しぶりに会う友人や先生たちと話ができて懐かしくて、とても感激しました。今までは両親に頼っていたところが多かったのですが、これからは自分のすべきことは親任せにせずに、何でも自分一人できるようにになりたいと思います。



みかみ 見え ちえさん
(三好丘)

成人式実行委員として、一人でも多くの新成人の仲間に喜んでもらえる成人式にしようと、ほかの実行委員のみなどと努力しました。自分も一人の大人として責任能力を認めてもらえる年齢になり、これまで育ててもらった両親にとっても感謝しています。



みとう ゆうすけ 鬼頭 佑輔さん
(三好上)

自分の二十歳の誕生日を迎えたときより、成人式に出席した今日の方が、大人になったことが実感できました。これからは社会人として、自分自身で責任を持って行動していきたいです。また周りからみて恥ずかしくない、常識のある大人になりたいと思います。



ふかみ ゆか 深見 有佳さん
(筋生)

次回3月1日号のテーマは

「愛知万博に出掛けますか」

広報情報課が皆さんのところへ突撃インタビューに伺いますので、ご協力ください。また郵便や電子メールによる「声」もお待ちしています。(2月8日(火)締め切り)

みよしの文芸

俳句

マスクして何時もの舌鋒影潜め 竹下 乙茶
 死ぬ力生きる力や去年今年 八木 泰男
 マスク取り言わねばならぬ時迫り 北出 風光
 少し背を丸めて行けりマスクの児 鬼頭 美以子

短歌

今日だけはゲームする手を笛、バ 深谷 とみ子
 ちに郷土芸能守る子となる 深谷 美代子
 声あげて泣きたき気持おさえつ、 松浦 久子
 若きがゆえに母を恋うるも
 桜貝に似たる曾孫の指の爪いとし
 さこめて両手につつむ

狂俳

折エテカ 原田 里秋
 絵馬吊す天満宮に薫る梅 加藤 満弥
 絵手紙 久野 夢楽
 年賀に梅が咲いて居る
 縁起良し
 朝の茶柱飲んで来た